

平成 27 年度  
第 2 回 北広島市文化財保護審議会  
議事録概要

平成 27 年 10 月 28 日

北広島市教育委員会

出席者

審議会

藤井 浩 (文化財保護審議委員)  
森下 徹 (文化財保護審議委員)  
新發田 修治 (文化財保護審議委員)

事務局

吉田 孝志 (教育長)  
水口 真 (教育部長)  
櫻井 芳信 (教育部次長)  
小島 晶 (エコミュージアムセンター長)  
畠 誠 (学芸員)  
上田 哲司 (学芸員)

日時 平成 27 年 10 月 28 日 18 時 30 分～20 時

場所 エコミュージアムセンター知新の駅 ミーティングルーム

- (1) 開会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 文化財保護審議会会長あいさつ
- (4) 議事案件

**【協議】国指定史跡 旧島松駅逦所の保存及び活用に関する基本方針について**

(基本方針策定の経緯及び基本方針書の内容について事務局より説明)

委員 : 補助申請の要望等は提出済みか。また、補助金額、事業費はどのくらいか。

⇒事務局 : 平成 28 年度文化財関係国庫補助事業計画の取りまとめについて、北海道教育局から照会あるため、それに載せる予定である。補助金額は補助対象経費の 2 分の 1 となっている。電気、建物。庭園整備、消防、耐震関係に分けて見積中で、具体的な金額は出ていないが、かなりの金額になる。問題は耐震関係で、外観を変えないような特殊な工法になるため、方法によっては相当かかる。

委員 : 集客が悪いのは場所柄か。アクセス案内はどうなっているのか。

⇒事務局 : 案内表示は最小限で、国道の北広島側に 1 つ、後は国道に設置されている青看板だけという現状である。来館者数の状況としては、大型の観光バスが来ることはあるが、観光客が押し寄せるといったことはない。駐車場の問題もあり、興味のない人ばかり来るのもどうかとは考えている。多くの人に見てもらいたいということと、周辺整備とは表裏一体である。

会 長 : ホームページなど、ソフト面での展開の現状はどうなっているのか。

⇒事務局 : 市ホームページで紹介しているほか、バスツアーやライトアップ事業などを行っている。また、駅通所のヤマユリやハスの花が咲いた際は、ホームページや知新の駅ビクターホールにも写真を掲載している。一方で、北広島駅でのPRなど、大々的な宣伝はしていない。何かの機会に来てくださった人が良い印象を持ち、それを知り合いに伝えてもらうといった、いわゆる口コミが重要と考えているが、現状の整備状況では、悪い印象を広めてしまうかもしれないと危惧している。

委 員 : 「ゆめびりか」をはじめとする今の北海道米のルーツとして、「赤毛」をもっと紹介してはどうか。また、そもそも「駅通所」とは何かを多くの人は知らないという現状がある。これには、当時の人々の生活がわからないという事情もあるため、例えば馬に乗れるなど、当時の生活を体験できるものがあるといい。

⇒事務局 : 最近、農研機構の方が日本育種学会で「赤毛のルーツは秋田だった」と発表し、また、道立図書館で米に関する展示を行うなど、非常に美味しくなった北海道米への関心が高まっている。「外の力」を借りる形になるが、こういった動きに合わせて、我々も情報発信を行っていきたい。一方で、赤毛は流通できないため、方法は考えなければならない。駅通所について、民間で実施されたクラークフェスタではないが、駅通所の後ろで歴史講演を行う等の機会があれば、引馬体験も考えたい。

会 長 : 赤毛は上川農試で栽培されており、一般に流通してないため難しいかもしれないが、おにぎりなどにして食べ比べ体験ができる機会が欲しい。また、(地元の魅力を活かせる)人材の育成も必要。

⇒事務局 : つい最近、市教委が運営する「まちを好きになる市民大学」で長沼農業試験場の方を講師に招き、米についての講義をしていただいた。講義の中で、赤毛と他の道産米の食べ比べを行ったが、非常に好評であった。こうした取組みをもう少し展開して、会場で実施できれば面白い。

委 員 : 生長途中で倒れないように肥料を抑えて栽培するので、赤毛自体はそれほど不味くない。そういったことも伝えていけたらいい。どこかの農家に委託して、年間を通して一定量を確保できるような形にするとよい。

⇒事務局 : 参考にさせていただく。

委 員 : 史跡の活用について、どこまで活用してよいという制約はあるのか。例えば、見本田を拡張するとなると現状変更申請が必要になるのか。

⇒事務局 : 必要になる。

委 員 : 今までにそういった事例はあるか。

⇒事務局 : 知る限りでは、ない。例えば、危険木の伐採など権限移譲されている事項については行っているが、何かを新たに増設するといった事例はない。

- 委員：建物だけでなく、見本田も史跡に含まれるのか。
- ⇒事務局：はい。建物だけでなく、約 4200 平方メートル全体が史跡に指定されている。その中は勝手にいじれない。
- 委員：トイレを設置できないのはそれが大きな理由か。
- ⇒事務局：はい。駅通所の建物内もそうだが、周辺に設置する場合でも景観が変わってしまうので難しい
- 委員：見本田について、当時はあの場所に水田があったとは思えないが、検証されているのか。
- ⇒事務局：昭和 59 年に国の指定史跡になった当初は水田や暖水路について考えていなかったらしく、見本田は、史跡の活用の観点から後付けで作られたのは確かである。一方で、当時の写真や記録から、駅通所の周囲一帯は水田だったことがわかっており、現在の規模とは異なることは確実だが、見本田のある位置も当時は水田の一部であったかもしれない。
- 委員：後付けで作られたものであれば、看板などと同様、拡張することはできるかもしれない。
- 委員：当時の暖水路についても、現在の形であったかわからない。駅通所周辺は谷地形で川の水が冷たい一方、沢水はあるので、そちらを使った方がいいとして後付けで作ったもので、当時はなかっただろう。そういった部分も検証しなければ誤解を与えてしまう。
- ⇒事務局：島松川の水は冷たいので水田には使わず、北側の山から流れる沢の水を引いて使っていたことは昔の地図などからわかっている。また、池は当時もあり、池で水を温めて使っていた。一方で、暖水路（に関する資料）は見たことがなく、どういった形だったのかわからない。
- 委員：おそらく当時は現在の見本田のような水路ではなく、上の田から下の田に水を流していくような方式だったと思う。あってもせいぜい池くらいのはず。
- 委員：音江別川沿いの水田跡にはまだ暖水路跡が残っている。見本田と同じような形で、暖水路の下に 3 枚の田がある形。暖水路跡は他にも市内数カ所で見えた覚えがある。
- ⇒事務局：市外出身の市民から、市外では見本田のような暖水路があったと聞いている。
- 委員：興味深い。検証した方がいい。
- 委員：中山が大阪を出てから仙台藩に仕えるまでの間に何を経験してきたかについては、あまりわかっていない。旅の途中あるいは仙台藩に仕えてから、ため池は当然として、暖水路についても見聞きしたのかもしれない。その足跡を辿ることも調査としては重要である。

- 委員：史跡周辺の整備に関して、パブリックコメント等の実施予定はあるか。
- ⇒事務局：企画課の方で進めていくことになる。現在、市ではいくつかの市民参加の方式があり、パブリックコメントやワークショップなど、どの方法かはわからないが、少なくとも地元住民を無視することはない。西部地区、島松地区の方々には駅通所を誇りに思っており、その方々の意向を汲みながら周辺整備を進めていくと、企画課から聞いている。
- 委員：併せて周辺エリアの愛称・名称を募集すれば、駅通所について知っていただくきっかけになると思う。
- 委員：周辺エリアには島松川が流れているが、島松川はサケ、サクラマスが身近に見られる場所のひとつでもある。また、駅通所よりも少し下流だが、かつては「シママップ」として石狩十三場所のひとつに数えられ、サケの交易が行われていたという歴史的な背景もある。北広島市民でも、島松川でサケが見られると知らない人が多い。サケ、サクラマスが見られる場所を示す看板などがあれば、自然に触れられるきっかけになると思う。
- ⇒事務局：11月7日に島松橋（久蔵橋）の工事が終わり、来年から護岸工事が始まる。駅通所横の土地の護岸方法について、なだらかに川辺に下りられるようにしたいという考え方が数年前にはあったが、水面位置が低い関係で断面の半分以上が護岸（スロープ）になってしまうため、階段状の護岸になると聞いている。その場所で水と戯れるのは難しいかもしれないが、護岸が整備されれば川面を見下ろす機会が増え、魚を観察する機会も増えるので、自然に触れ合うような活動も駅通所横の史跡公園のようなエリアで展開できるかもしれない。また、現状として魚類の遡上が見られるということであれば、それを自然遺産と捉えて、エコミュージアムの中で案内することはすぐに可能かもしれない。
- 委員：周辺エリアの遺跡について、たとえば島松川左岸チャシがすぐ近くにある。恵庭側には島松 B チャシ跡という道内でも貴重な遺跡があるが、駅通所の駐車場からよく見える。そういったことを自然やアクセスなども含めて一体的に知らしめていけるとよい。それが可能なのがエコミュージアム構想のサテライトだと思う。北広島のサテライトをめぐるような取組みを、北海道博物館や道立図書館など他の機関と連携しながら進めていければ、もっと活発になる。
- 委員：史跡の周辺は環境緑地保護地区の島松地区でもある。昔の国道 36 号を、自然観察もできる形でうまいこと散策エリアにできないか。もし活用できれば、自然をもっと立体的に見ることができる。
- 委員：同じような年代に建てられた道内の他の駅通所があると思うが、改修等の動向はどうなっているか。
- ⇒事務局：旧島松駅通所と同様に昭和 50 年代に指定されたものが多く、建物も傷んできているため、改修をしている状況にある。
- 委員：改修に取り組んでいる他の市町村とうまく情報交換を行うとよい。

委員：「駅通所」とは何かが一般にわかりづらいという問題がある。

⇒事務局：平成 28 年 2 月より中山久蔵と駅通所に関する企画展を行うので、そこで紹介する。

(5) 閉会

(事務局より次回審議会について事務連絡を行い、終了)

以上